

## これからの時代に求められる学び

現行の学習指導要領の趣旨は、子どもたち一人ひとりにこれからの時代に必要な資質・能力を育み、生涯にわたって積極的に学び続けることができるようにすることです。その実現には、授業改善が必須です。教師が一方的に教え込む授業から、子どもが教わったことを生かして自ら考え、判断し、表現して学び合う、そうした授業への転換です。

授業づくりを行う際のキーワードの一つに、「主体的な学び」があります。この「主体的」という用語の意味は、類義語の「自主的」と比較することでより鮮明になります。

「自主的」は、あらかじめ決まっていることを人に指示される前に行うさまを言い表します。

一方の「主体的」は、内容や方法を自分で決めて行うさまを指します。家庭学習で言えば、宿題の多くは自主的に行うもの、自由研究、定期テストや高校入試に向けた学習は主体的に行うこととなります。

これからの社会は、グローバル化の進展や目覚ましい技術革新により急速に変化し続け、予測が困難な時代を迎えます。このような時代を生き抜くためには、様々な変化に積極的に向き合い、自己の課題を見付け、その解決の方法等を工夫しながら学び続けなければなりません。授業において、複数の選択肢から学習の課題や内容、方法等を選択・決定しながら学ぶ、「主体的な学び」が求められるゆえんは、ここにあります。

主体的な学びに試行錯誤はつきものです。自分の学習の状況を振り返って把握し、学習の改善に向かって自ら学びを調整しようとする態度や、粘り強い取組を行おうとする態度を養うことは、子どもが生涯にわたり主体的に学び続けることにつながります。



## 鳥虫魚の眼

新日本石油社長 渡 文明

いま、必要なのは「鳥虫魚の眼」をもつことです。

出典：秋庭道博著「逆境に克つ『言葉力』 その3 プレジデント名語録『200』選」（プレジデント社）

※ 鳥の眼をもつとは、全体を俯瞰して状況を把握すること。虫の眼をもつとは、至近距離から現場をつぶさに見ること。魚の眼をもつとは、人や時代の流れを読んでそれに乗ることを指します。